

事業報告書 (平成 29 年度)

事業名 おいでんせえカフェ

団体名 一般社団法人おいでんせえ岡山

担当者名 逢澤直子

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

- ①6/14 12:00～15:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）7人
下見に来られた方2人に物件をご案内し、移住者3人と語っていただく。
- ②6/28 17:00～20:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）7人
東京からの移住者で岡山でメロンを生産している移住者の苦勞を地域住民と聞く。
- ③7/12 12:00～15:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）8人
東京からの移住者で岡山でメロンを生産している移住者の苦勞を下見移住者に語っていただく。
- ④7/19 17:00～20:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）5人
移住者と地域住民と岡山の食を使って料理教室を展開されている講師の体が元気になる食の話をしていただく。ここで、地域住民が経営しているお店とのコラボがうまれる。
- ⑤8/16 12:00～15:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）5人
東京での移住相談会后に下見に来られた方のお話を聞き、物件をご紹介する。
- ⑥8/30 17:00～20:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）8人
千葉出身モルジブからの移住者で葡萄を生産している移住者の苦勞を地域住民に語っていただき、ここで地域住民のお店とのコラボレーションが生まれる。
- ⑦9/20 12:00～15:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）8人
何百人という生徒のスウィーツの講師だった東京からの移住者で、岡山のホテルでソムリエとして活躍している様子を地域住民に話していただく。
- ⑧9/27 17:00～20:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）5人
島根県庁より見学に来られる。移住者と語る。
- ⑨10/11 17:00～20:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）12人
前半はパーマカルチャーを展開しているアメリカからの移住者で生物学者にお話を伺い、後半は地域住民でカフェレストランを営者に岡山での飲食の経営についてお話を伺う。
- ⑩10/18 12:00～15:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）5人
移住者の相談をうけたり、移住者同士交流をしていただく。
- ⑪11/22 10:00～17:00 パーマカルチャーセンター上叡（久米南町上叡）15人
10/11 においでんせえカフェに来ていただいたパーマカルチャーセンター上叡のカイル氏に案内していただき、デザイン中の田んぼや畑や建築中のオンドルを、移住者、地域住民と見学する。
- ⑫11/29 17:00～20:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）人

パーマカルチャーセンター上栲（久米南町上栲）のシェア会を行う。

⑬12/13 12:00~15:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）5人
東京移住相談会に来られた方が下見に来られたので相談にのる。

⑭12/20 17:00~20:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）7人
埼玉からのシングルマザーの移住者の、岡山での生活の様子を伺う。

⑮1/10 17:00~20:00 岡山市駅前町隠れ家一步 9人
移住者と地域住民の新年会。今年の抱負を語りあう。

⑯1/24 17:00~20:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）3人
スタッフミーティング。昨年の反省と今年の活動を定める。

⑰2/14 12:00~15:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）5人
福島からの移住者のお話を伺う。

⑱2/28 17:00~20:00 アイランドテラス（岡山市北区大元）7人
地域住民で猪猟をされていて、猪の脂を使用した石鹸を東京で販売されている会社の社長にきていただきお話を伺う。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

誰一人取り残さず、あらゆる人々の活躍の推進の場を作り、経済、社会、環境を見つめ直すことで地域活性化をはかり、住み続けられるまちづくりを構築していく。

平和と安全安心社会の実現公正をすべての人に。

ESDの視点を意識することで移住者、地域住民相互理解が深まり、向上心が芽生えた。

3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

災害による移住避難の方には、地域の一員としての役割に気づくことで、孤立感から他県へ転出する例も多かったが、住み続けられるまちづくりとして自分の居場所を見つけることで孤立感からの転出防止となった。

転入者の多い市街地である大元学区にてふれあいの希薄した、コミュニティが出来にくいところが、地域の方の意識が広まった。

地元の方には、実際の移住者の声を聴く、喪失感に寄り添うことで、他人事ととらえず、困りごとへの積極的なアプローチができるようになった。

対話を続けながら、住む家をニーズを聞き取り、その場で探すことで安心感を与えられた。

仕事を紹介または対話で聞き取ることで安心感を与えられた。

心の内をさらけ出せる場所の確保で安全安心を感じていただき、一歩前へとすすめられることができた。

転出を防ぐ。

4. 今後の課題と展望

無理なくつづけられるように毎月1回から今年から毎月2回のペースで行ったが、人の繋がりが広がったと思う。

移住者と地域住民の交流で、移住者の孤立感は減り、地域住民の人に寄り添うことは相互効果がおきたが地域住民の防災への意識まではまだまだ至らず、移住者の参加からもその声はおきた。

この活動は長期にわたると思うので、2年目から参加者から参加費500円をいただくことで、無料に魅せられてきていた移住者は減った。

この辺りを私たちがどうとらえるかで、今後の私たちの活動が変わってくると思う。